

我的昆明很好生活

11月14日(木)

昆明に来て以来、時間つぶしと自己管理と備忘録を兼ねて、毎日「家計簿」をつけている。なにせ永年すべてがカミさん任せで、その上にドンブリ勘定が身に染み付いているので、タガを外さないための防衛策でもある。当然のことながら「収入」はないので「支出」だけはあるが、1日1日使ったお金を「食費」と「雑費」の大項目に分けて、それぞれに細目を記録している。

当初、住居費が目論みをオーバーしてしまったので、日々の生活費をできるだけ節約することに、1日の生活費を50元としている。「1000円亭主」ならぬ「650円亭主」である。幸いなことに9月以降も円高が続き、円の強みの恩恵に浴しているが、9月、10月の家計は目標の「50元生活」を大幅にオーバーした。「衣食住」の中で「住」は滞り期間中の家賃を全額前払いしたので、これ以上の出費はない。光熱費も前払金で精算することになっている。「衣」については、越冬の想定で一応の準備をしてきたので、こちらも支出は考えていない。出費の大半は「食」ということになる。自活を2ヶ月経験して、結構辛いものがあることがわかった。物価の安い中国では、すべて外食した場合でも1日30元あれば十分に可能である。だが、いくら中華料理が好きだとは言え、毎日3食ともに米線(ミーセン)、餃子(ジャオズ)、

単位：人民币(元)	9月	10月
学費	6,200.00 (80,600)	—
住居費	11,280.00 (146,640)	—
食費	799.63 (10,395)	862.29 (11,209)
雑費	1,962.60 (25,513)	1,294.70 (16,831)
その他	1,300.00 (16,900)	—
総計	21,542.23 (280,048)	2,156.99 (28,040)
食費+雑費の1日平均額	115.09 (1,496)	69.58 (905)



大学からの帰りに食材を仕入れている「好順路農貿市場」。商品が実に豊富で、特に「水果」(果物)の種類は数えきれないほど豊富で尚且安い。顔見知りになった八百屋のおばさんがサービスしてくれるのだが、量が多くて1人では食べきれないときがある。

包子(パオズ)では必ず飽きがくるだろうし、いれや高級中華料理に舌鼓を打つなど贅沢は敵である。体調維持の上からも、口に馴染んだ味覚がなによりと考えて自炊をしている。「食」は一人生活のゆとりを紛らわす楽しみでもある。

しかしながら、大学から帰ってくる道すがら献立を考え、材料を考え、手順を考え、材料を購入し、調理をし、食後は血洗いをし……。当然のことながら、準備から後片付けまですべて自分でやらなければならない。宿題もしなければならぬ。元来、料理は好だし得意な方ではあるが、毎日のこととなるとまた別で、喜んでくれる人もいないし、痛だからときどき料理の出来栄を自画自賛しながら食している。「私は料理の天才だ!」

もう一つ、面倒くさい仕事がある。洗濯である。幸いなことに部屋に洗濯機があったので、ほぼ2週間に1回程の割合で洗濯をしている。洗濯そのものはさして面倒ではないが、干してたたんでしまうのが面倒である。部屋が北向きなので、天候の悪い日は乾くのに3日ないし4日かかることもある。ある日、洗濯物をたたんでいてふと思いついた。7月頃だっただろうか、妻が2階から洗濯物を持ってきて、「ハイ、お願いします」と私の下着や靴下を手渡した。私はなにも考えずにそれをたたんで自分の引出しに入れたが、思うにこれは、今日のための予行演習だったのではないだろうか。ありがたい感謝している。

10月中旬、徐々に経費が上昇傾向にあることに気付いた。そこで、食生活スタイルを見直した。毎日の食料仕入れを止めて、週1回土曜か日曜日に食材をまとめて購入して作り置きをし、1週間ですべてを食べる方式に転換した。しかし、こうなるとまた別の厄介な問題が出てきた。1週間分の献立を考えなければならぬ。あまり細かく予定を決めてしまうと無理も出てきそうなので、5種類程度の献立を考えることにした。その日の気分や冷蔵庫から作り置きしたものを選択し、火を通して食するようにした。お陰で土曜買い出し、日曜調理のスケジュールが定着しつつある。まとめ買いの経済効果の程は未知数であるが、11月14日現在、毎日ほぼ予算額の範囲内で収まっている。想定外の出費もあった。テキスト2冊と辞書2冊を購入した。締めて約1200元。授業はハイスピードで進み、尚かつ授業内容も提出物の内容も徐々に高度になってきた。今週の宿題は、500字以内の小作文と2課分の新語の暗記と次の課の練習問題の予習である。小作文のテーマは『我的星期天(私の日曜日)』。担任の王老師曰く、「木曜日から月曜日午前中までの4日半分です」と。休みはないのでしょうか? 授業の予習復習に辞書が欠かせない。手持ちの電子辞書に「漢語辞典」がインストールされているが、これは「漢字」の意味が記載されているので、現代中国語の意味や語法、熟語などを調べることができる。ピンインが記載されているのは助かった。9月に『漢英辞書』を購入し、今週、作文対策用に『英漢辞書』を購入した。加えて、10月下旬から寒さが増し、ことに夜間は部屋の中にも手足が冷たくなる程で、大学でも風邪をひく学生・教師がでてきた。王老師の授業も風邪で1日休講になった。そんなこともあって、たまたまウォルマートのパーゲンセールで見つけた電熱器を「転ばぬ先の杖」と購入した。45元のお買い得であった。後日、この電熱器の情報をパッドさんに教えたら、彼もすぐに購入した。その翌日、このほか感謝されたので、日本には『武士は相身互い』という言葉があると言ったら、『武士はTanaka youをなんと云うのか』と聞くので、「かたじけない」と教えてあげた。

■昆明の買い物事情■
昆明では「購物広場」(大型スーパー)、「超市」(日本のコンビニに相当)、「便利店」(雑貨屋さん)、「〇〇〇農民市場」などで食品・日用品を手に入れることができる。普通の食材は市場で手に入れることができるし、バターやコンソメ、パスタ、マヨネーズ、日本のうどんなどは、大型スーパーの「ウォルマート」か「カルフル」(フランス資本)で手に入れることができる。野菜類・果物類などの生鮮食品は市場の方が圧倒的に安く新鮮である。ウォルマート、カルフルでは海の魚も売っているが、種類は少なく、なお且つ冷凍物がほとんどで、生の魚は大変に高額である。余談

もう一つの“市場”

通学バスの下車駅である「五一路(ウーイーロウ)」のすぐ側に、「雲南人材市場」がある。日本の「ハローワーク」と同じような場所らしい。中国にも日本の失業保険に相当する制度があって、失業期間中に一定の所得補償が受けられ、職を紹介してもらえることができる。昆明市内は目下、経済成長の最中であって求人が多いが、雲南省全体から出稼ぎが増え、希望通りの職を見つけるのはなかなか難しいらしい。賃金格差も広がっているようで、中卒高卒で月額800~1000元(大半が衣料品店・飲食店の店員さん)、大卒で1000~1800元が相場のようなのだ。もちろん、職種によっても違う。中卒高卒でも専門職で2000元以上、大卒で3000元以上というものもある。月額家賃が1000元を超える今日、月に1000元、1500元の給料では仕送りはおろか、生活費さえ十分に賄えないのではないだろうか。都会はいずれも華やかな魅力はあるものの、生活をするには困難が多いのは同じようだ。それにしても「人材市場」とは何とも非人間的な響きを感じてしまう。バスの車内放送では「human resource center」と言っていた。



だが、昆明市民は鶏肉と海老がえらく好きなのである。面白いことに、市場もスーパーもすべて「量り売り」である。スーパーではパックされたものもあるが、ほとんどの市民は肉でも魚でも自分の目と手で確かめた後に袋に詰め、それを計量係のカウンターに持って行って金額ラベルを貼付けてもらい、出口のカウンターで料金を支払う。市場ではその場で計量し現金を支払う。いざいにして必要な量だけ買うので無駄が少ないように思える。日本のような「レジ袋」はなく、市民は自前の買い物袋を用意している。袋代は1元。買い物風景を眺めているととても好奇心をそそられる。私のお気に入りには大学の近くにある「好順路農貿市場」である。ここでは野菜・果物・肉・淡水魚のほか総菜も手に入る。市場の中心に肉屋さんと八百屋さんが向かい合っているところがあって、八百屋のおばさんと顔なじみになったお陰で、少量でも分けてくれる。その向かいの肉屋のおばさんは行きたびに肉は要らないのかと聞いてくる。大根1本5元、タマネギ(直径7、8センチ程度)3個で5元程度、春菊1束(日本の倍の量がある)3元程度、豚肉300グラムで7元程度である。私の好物の香葉は1元で、一人暮らしには2週間でも多いくらいの分量である。中国の人が商魂逞しく、且つ、商売上手なのは事実だろう。例えば、正札に「1000グラム16元」とあるので、200グラム注文すると32元だが、35元分を買わされる。300グラムだと48元だが、結果は50元分を買わされることになる。単に釣りを単純にしているだけだが商売が上手い。